

読者の声

「爪乳頭腫の下床にグロムス腫瘍を合併した1例」(皮膚臨床, 67:1553-1556, 2025) を読んで

図5の写真で、グロムス腫瘍と言い切れるか疑問です。血管周囲をグロムス細胞が取り囲んでいますが、本来、生理的に存在するグロムス装置のように思います。

動脈から静脈への吻合部にあたる Sucquet-Hoyer canal の外周をグロムス細胞が取り込む、それがグロムス装置とされています。爪下や趾尖側面、手掌に分布し、熱調節の機能を持ちます。

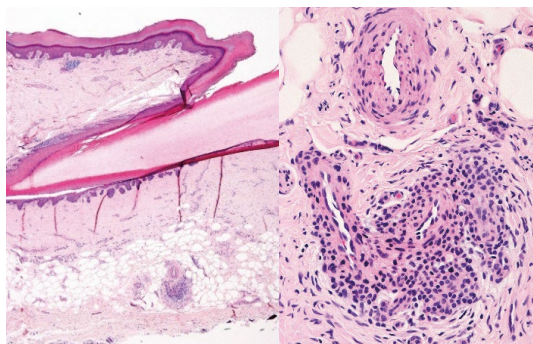
従って、指尖部や爪下の病理標本ではグロムス装置が見えることがあり、爪のメラノーマや Bowen 病の症例で経験します。自験例を図示しておきます。

水野論文に掲載されている病理写真では、腫瘍と言えるほどの細胞増殖がないように思われますし、細動脈や静脈が隣接していることもグロムス

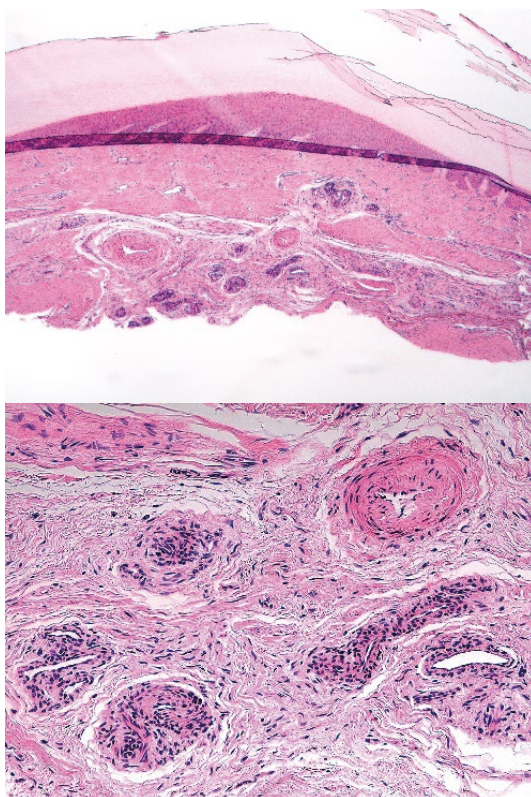
装置を想起させます。もちろん、どこまでが正常の細胞増生で、どこからが腫瘍性増殖かの線引きは難しいです。

私はあくまで病理の専門家ではないので、個人的に病理専門医の意見も尋ねたところ、私と同意見でした。

大原國章
(赤坂虎の門クリニック)



爪のメラノーマにみられたグロムス装置 (自験例)



別の爪メラノーマの症例。グロムス装置が多数みられる。

著者の回答

ご指摘ありがとうございます。提示した写真は代表的な高倍率像であり、当該像のみからは生理的なグロムス装置を想起し得る点はごもっともです。

一方で本例では、爪床（爪下）に一致して限局した明らかな疼痛（圧痛/誘発痛）を認め、摘出後

に疼痛が消失しており、臨床経過としても爪下グロムス腫瘍に整合します。加えて組織学的にも、血管周囲のグロムス細胞が限局性に増量し、周囲と連続する生理的装置の範囲を超えて結節性（腫瘤性）に増殖している所見であり、総合的にグロムス腫瘍と判断しました。

以上より、本例をグロムス腫瘍とすることに矛盾はないと考えます。

水野謙太

（自治医科大学附属さいたま医療センター）